

## 片隅

反動の狡知が僕を微笑させ  
賛同を求めようと躍起になる人々の  
自己顕示をなめ合ってくすぐったがる人々の  
おめでたい「知的」議論のその傍で  
雨がぼつぼつ降り出していた

僕はまた微笑してもいたろうか  
「詩人ぶらない」人々の満足げな笑いや  
安住への肯定と抑圧への苛立ちを  
平穩にしがみつく者のみが身にまとう  
それらたわいない饒舌を

僕は乱したくはなかったのです  
この平和に満ちた団樂を  
異端者として

(1985.3.29)